

かつて、人々の生活用水として地下から湧いてでたり、川を流れていた澄み切った豊富な清水が失われつつある。自然界の循環サイクルどおりであれば水は減らないはずで、今はどこかでその流れが滞っているのではないか。

10年前に環境庁は年々少なくなる清水を保全し、水資源の大切さを喚起させるため、全国の100箇所の良く保全されている優れた水を選び、「名水百選」というブランドを与えた。

本書はこれら100名水の中、25都道府県の43箇所を紹介したものである。故事来歴および由来、地域生活とのかかわりをはじめ水辺の整備活動は名水をより親しくさせ、水源の地質構成・地形的な位置関係、水文学的な特徴、水質を分析した水質組成データなど科学の手を借りた客観的な分析結果は各名水の現状と共に水環境が悪化された要因などが把握できるように構成されている。

人手が加わることによって自然が乱され、水質の汚染、水量の減少など破壊されつつある水環境をいかに保護・保全するかを探るとき、名水で作った水割りを片手に、名水を科学した本書を読むとその趣意が高まるだろう。

【い】

## 名水を科学する

日本地下水学会編

A5判・299ページ。  
定価4635円(税込)。  
平成6年10月25日初版発行。  
同年12月13日受付。  
〒107 東京都港区赤坂  
1-11-41  
技報堂出版発行。  
Tel.03-3585-0166



兵庫県南部地震以来、書店で地震関係の本を目にすることが多くなった。しかし、並んでいる本のタイトルをみているといたずらに危機感を煽るようなものが多く、これから地震に対して真摯な態度で望もうとしている人が手にするような本はほとんど見あたらない。

本書はそういった本とは違い、地震がなぜ発生するのか、どうしてこんなにひどい被害をもたらすのか、そして果たして地震予知は可能なのかといった、一般の人が地震について興味を持ちそうなことについて詳しく述べている米国の入門書を翻訳したものである。この本の書かれたカリフォルニアは、日本と同様に数多くの地震に見舞われていることもあり、地震の研究では最先端にある。そのカリフォルニアの研究者が書いたこの本を読むことにより、地震についての最新の知識を得ることができるだろう。また過去の地震の記録やエピソードが数多く取り上げられているが、その中に日本の事例が多く目に付き、日本が世界でも有数の地震国であることが再認識されるだろう。ただ、惜しむらくは文章が非常に直訳的であるのが気になって読みにくく、また日本版の訳者が付け加えた注釈が逆に煩雑な印象を与えてしまっていることも残念だった。

【さ】

## 地震

Bruce A. Boet 著・  
松田 時彦・渡辺トキエ 訳

A5判・340ページ。  
定価3605円(税込)。  
平成7年3月3日初版発行。  
同年2月27日受付。  
〒101 東京都千代田区  
神田駿河台2-10  
古今書院発行。  
Tel.03-3921-2757

